

# 令和4年度取組状況

ものづくり工学科

医療福祉工学コース

(職)准教授(氏名)古屋 友和

取組状況	
教育	<p>1. データサイエンス手法を取り込んだ人間工学教材の作成 専攻科人間工学特論にて、多変量解析(主成分分析、クラスター分析、重回帰分析)を用いた感性工学の教材を作成し、授業を実施した。この内容の一部を次年度からの人間工学Ⅱに展開し、専攻科にむけては更なるDS手法のコンテンツを取り入れる。</p> <p>2. 英語での技術プレゼン資料作成課題の実施 福祉機器設計Ⅱにて、自分で創造した技術についてのプレゼン資料を英語で作成させた。今回、5～6分間の英語での発表は難しかった為、次年度はその半分の情報量にして英語を発表させることを検討する。</p>
研究	<p>1. 国際会議論文 [1] <a href="#">Furuya, T., Kobayashi, M.</a> : Vibrotactile Human Machine Interface for Electric Wheelchairs to Intuitively Present the Movement Direction of Nearby Objects, Human Computer Interaction International 2023, 採択(2023年7月発表予定)</p> <p>2. 国内学会発表 [1] 古屋友和, 川島豪: 振動触覚刺激の仮現運動を用いた距離感の伝達の検討, 日本人間工学会第63回大会, 2022年9月 [2] 古屋友和, 川島豪: 振動触覚刺激の仮現運動を用いた上肢への周辺物体情報の伝達, 自動車技術会2022年秋季大会学術講演会, 2022年10月 [3] 和田純弥, 古屋友和: 日本人間工学会関東支部第52回大会・第28回卒業研究発表会, 2022年12月(研究責任者)</p> <p>3. 外部資金獲得 [1] 公益財団法人スズキ財団 科学技術研究助成(一般), 研究代表者, R5年度実施 [2] 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 研究代表者, R5～7年度実施</p>
社会貢献	<p>1. 学会活動 [1] 自動車技術会、ヒューマンインタフェース学会、日本人間工学会 会員 [2] 日本人間工学会 関東支部 幹事・会計 [3] 日本人間工学会 第52回関東支部大会・第28回卒業研究発表会 セッション座長</p> <p>2. その他 [1] 新聞記事“視覚に頼らない情報提示への挑戦”, 日刊自動車新聞(2022年6月4日掲載) [2] 玉川大学 工学部 非常勤講師</p>